

町の活性化に向けた挑戦 横瀬町の進める官民連携プラットフォーム「よこらぼ」

ぶぎん地域経済研究所 取締役調査事業部長 松本 博之

横瀬町の地方創生に向けた取り組み

横瀬町は、都心から70km圏、埼玉県西部、秩父郡市の東の玄関口に位置する、人口8,458人（2017年9月1日現在）の小さな町である。町のシンボルでもある武甲山の麓に広がる自然豊かな町で、武甲山から採掘される良質の石灰石を用いたセメント関連産業のほか、観光農園その他の観光業が主な産業である。四季の果物やしいたけ狩りを楽しむ観光客、登山客や埼玉県下最大級の棚田である寺坂棚田などを楽しむハイキング客、芦ヶ久保の道の駅で手ぶらBBQを楽しむ人たちが町を訪れる。今年4月に武蔵野美術大学との官学共同プロジェクトによる3つのオブジェが完成しボランティア中心に整備が進められている、「人が集う、花咲く美しい山、（仮称）花咲山」や、毎年1～2月に多くの人を訪れるあしがくぼの氷柱など、町の見どころも多い。宇根の八阪神社、御嶽神社の里宮などのお祭りには外部からの観光客も増え始めている。一方で、平成7年の10,194人をピークに人口減少が継続しており、65歳以上の老年人口比率は31.5%（2017年9月1日現在）と、他の地方都市と同様の悩みを抱える。

横瀬町では、2015年度に地方創生総合戦略を策定、人口減少という難題に立ち向かい町を活性化し、住民の福祉の向上を図るための取り組みを始めた。その中で2016年9月30日、官民連携プラットフォーム「横瀬町とコラボする研究所（通称よこらぼ）」という取り組みが始まった。

「よこらぼ」は、民間のアイデアと資源を活用して地域の活性化を図ろうというものである。民間企業、研究機関あるいは個人の、横瀬町と一緒にやりたい事業や実証実験を誘致することで、ヒト・モノ・カネ・情報の流入を促すことを目指している。

参考：よこらぼ<https://yokolab.jp/>

「よこらぼ」とは？

「よこらぼ」の事業の流れを説明すると以下のようなになる。提案者から、横瀬町で実施したい事業（プロジェクト）の提案をしてもらい、月1回の審査会で審査し、採択された事業を町と協働して実施する。審査会は、町議会、町区長会、町観光・産業振興協会、町行政経営審議会、秩父商工会議所、町の指定金融機関である武蔵野銀行、町職員からの計17名で構成される。事業の公共性、新規性、将来性、そして町民にとってのメリットと事業者にとってのメリットなどの観点から提案に対する評価が行われ、審査結果を町長に答申する。（提案から審査の流れについて、図1参照）

審査では、特に事業の新規性と将来性が中心テーマとなる。“新規性のあるアイデアの実証実験を、町の協力を得て一緒に行うこと”が、「よこらぼ」事業の典型的な姿である。

このような官民協働の取り組みは、近年、他の市町村でも行われているが、「よこらぼ」の特徴は、

“入り口を広く”、“新規性のある多様な取り組みを”、“早く決断して実行する”点だと言える。

これまでの同様な取り組みでよく見られる町の具体的な課題を提示し、民間にその課題のソリューションを求めるのではなく、“提案者が横瀬町とやりたいことを、広く受け入れていく”ことに重心を置いているところも新たな視点とすることができる。

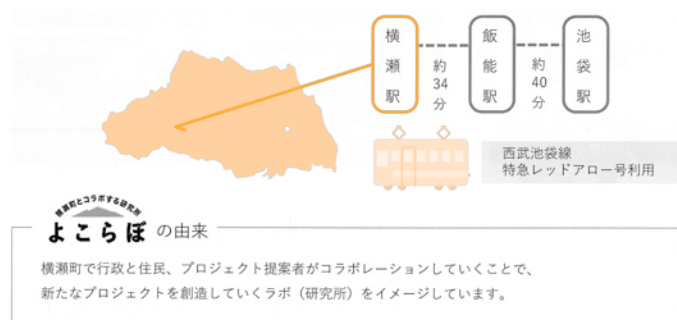
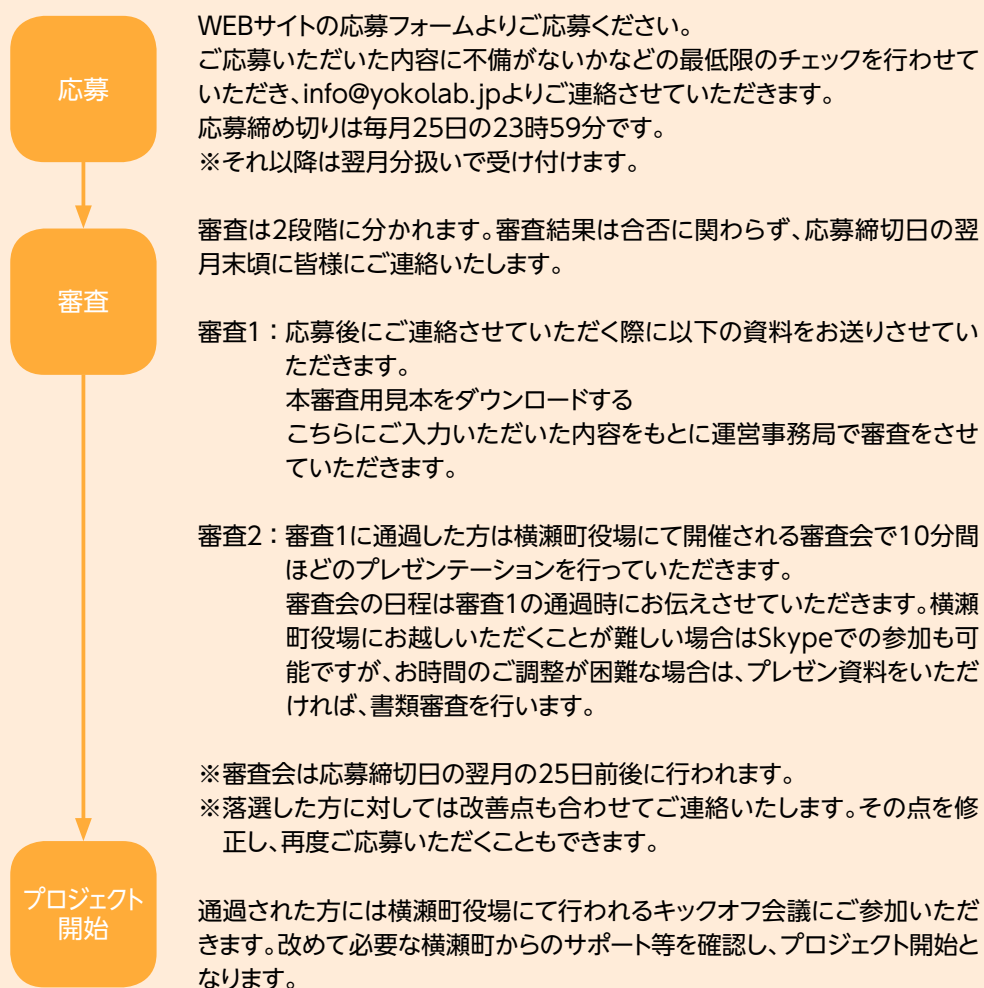


図1 「よこらぼ」提案から審査の流れ

応募資格	個人、団体、企業は問いません。下記の2点を満たしている方ならば、どなたでもご応募いただけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方で行いたいプロジェクトがある方 ・ 同意事項にご同意いただける方
同意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募者自身(または所属している企業や団体の方)が主体となって、実際にプロジェクトを進めていくこと ・ 月に1回以上の町への活動報告を行うこと ・ 年に3回以上の横瀬町での現地活動を行うこと ・ 反社会的勢力との関係がないこと ・ 不法行為、公序良俗に反する目的での提案でないこと ・ 宗教活動・政治活動等特定の思想信条の普及を目的とした提案でないこと ・ マルチまたは類する行為、その他消費者に著しい不利益が発生するおそれのある営業目的ではないこと
審査	<p>審査は町長、担当職員、町民代表らによって行われます。最終審査となる審査会は応募締切日の翌月下旬に行われ、結果はその後にお伝えいたします。なお、審査は以下の項目に基づいて行われますが、必ずしも全ての項目を満たしている必要はありません。</p> <p>【審査項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実現可能性 ・ 町民へのメリット ・ 町ができる協力と提案者の希望との整合性 ・ 新規性 ・ 提案者の熱意・コミットメントレベル ・ 町の興味関心

応募スケジュール



(資料提供：横瀬町)

この一見、行政らしくないこの取り組みである「よこらぼ」は、好調なスタートを切った。2016年10月から2017年9月までに提案された事業数は42件、採択事業数は22件に達した。その間に新聞や雑誌、テレビなどで横瀬町の取り組みは数多く紹介され、その反響は予想以上に大きい。今では、「新しいことを一緒にやるなら横瀬町」という流れを広く県外からも感じることができる。(町幹部)

- ・お互いのメリットを真剣に考えて、提案者とのwin-winの関係を作る
- ・入り口を広く、多様性あるものを受け入れる
- ・人とのつながりを大切にする

といった要素が、「よこらぼ」の好調につながっているのではないかと考えられる。その結果として、“おもしろい人(案件)がおもしろい人(案件)を連れてくるという好循環”を生んでいるようだ。

【よこらぼ】誕生の背景

横瀬町では、官民連携の新たなプラットフォームの構築にあたり、①人口減少による町の活力の衰退、②小さな町で自らの資源のみによる展開の限界、を町が直面している大きな課題として整理し、行政のみで解決困難な問題に対して、“新しい資源と活力と情報を獲得すること”を、目的として設定した。次に当時の町が前提とすべき社会の環境については、全国的に地方創生機運が高まっている中で、「民間企業の地方創生事業への参入」「公共領域のIT化」「シェアリングエコノミーなどの市場の変化」という世の中の動きがあった。その中で以下の様な課題があるだろうと想定した。

【企業や団体】

- ◇地方創生関連ビジネスを試したいが、どこでできるのか。
- ◇教育・福祉・医療・まちづくりなどの分野に参入したいが、公共機関とのつてがない。
- ◇良いサービスを持っているが実績がないので行政との提携が難しい。

【個人】

- ◇イベントを開きたいが場所がなく人が集まらない
 - ◇(「よこらぼ」のような)機会に参加し同じ気持ちを持つ仲間を見つけたい
- そして、これらの想定された課題に対して横瀬町から
- ◇行政へのアクセスをしやすいするための窓口の一元化(町長直轄部署)
 - ◇行政権限によるサポート(条例制定、特区申請など)
 - ◇公共機関へのアプローチ支援(教育、行政、福祉、医療へのアクセス支援)
 - ◇住民との協同事業の仲立ち(住民の協力を得るための住民へのアクセス支援)
- といったサポートを提供することで、「自治体×民間」のコラボの機会は増えるのではないかと考えたのである。

【よこらぼ】1年間の実績と今後

今年9月30日に1年を迎えた「よこらぼ」事業の採択案件22件は表1の通りである。分野は多岐にわたっているが、大きく分けて、シェアリングエコノミー：4件、教育・子育て：4件、新技術活用・開発：7件、健康づくり：2件、その他：5件と分類することができる。

これらはいずれも、いわゆるハコモノや多額の予算を計上して投資をするものはない。町は資金をあまり使わず、事業者の事業に協力することによりwin-winの関係を作ることによって成り立つものである。入り口を広くし、多様な提案を呼び込み、可能な限り早く決断して実行に移すことにより、多くの人、アイデア、経験、情報が横瀬町にもたらされている。事業者からの提案は「よこらぼ」のウェブページから申請するが、プレサウンドとして町役場に持ち込まれる案件も多い。そこでおもしろい人(案件)とのつながりができ、その人がさらに次のおもしろい人(案件)を呼んでくるという循環もできた。

表1 「よこらぼ」の採択案件一覧

	提案事業の内容	シェアリング エコノミー	教育・ 子育て	新技術活用・ 開発	健康づくり	その他
1	IT勉強会、DropBoxを使った災害情報等の共有	○				
2	廃校となった小学校、役場庁舎の貸し出し	○				
3	日帰り体験ツアー(祭り、田植え、稲刈り)	○				
4	ドローンの災害時の活用等のための協定締結			○		
5	横瀬の森で、自然を学ぶ年齢別プログラム		○			
6	WEBマガジン「よこらぼマガジン」による情報発信					○
7	早稲田大学サークルがあしがくぼ氷柱会場でパフォーマンス					○
8	若手クリエイターと地元中学生のアイデアソン、キャリア教育、共同制作プロジェクト		○			
9	小中学校にiPadを導入し、IoTを活用した教育、ICT教材を先行導入するプログラム		○			
10	腎臓予防のためのアンケートと啓発プログラムを企画				○	
11	タップダンスのレッスン、世代間交流、健康増進など				○	
12	利用者所有の自動車を使った運転代行マッチングの実証実験	○				
13	スマートメーター、家電等IoTによる、人、モノ、町をつなげるサービス実験			○		
14	遊休農地を活用した濁酒特区企画					○
15	科学的な調査、研究とフィードバックによる乳幼児の育児方法の助言プログラム		○			
16	ドローンの教習施設の設置プロジェクト			○		
17	横瀬中学校を舞台にした、若手映像ディレクターの、いじめをテーマにした作品制作					○
18	防災行政無線などに利用可能な技術の実証実験			○		
19	若手ファシリテーターによる、地域の事業者に向けた「共創」セミナー実施			○		
20	360度自由視点動画の新技術「SwipeVideo」の実証実験			○		
21	横瀬町を含めた林道コースのスポーツイベントの企画					○
22	防犯アプリの開発のための実証実験			○		
	件数 (件)	4	4	7	2	5

(資料提供：横瀬町)

多様な採択案件の中で今、教育が「よこらぼ」事業の大きな柱になりつつある。今年4月以降、東京で、そして世界で活躍するアートディレクター、ウェブデザイナー、映像ディレクター、エンジニア、写真家、イラストレーター、ミュージシャン、プロダクトデザイナー、編集者といった若手クリエイターが、東京と横瀬町を往復しながら、横瀬中学校の生徒たちに様々な体験、機会をもたらしている。社会全体で教育への参加を実現するという将来の教育のあり方の1つの姿を、先駆的に実現しつつあるように見える。当初「よこらぼ」が想定したシェアリングエコノミーへの市場の変化や新技術の実証実験だけではない、入り口を広くし「よこらぼ」を通じて出会った、町の活性化と住民の福祉向上の切り口の一つだと考えている。(参考：横瀬クリエイティブティーター・クラス <https://creativity-class.xyz>)

横瀬町の強みは、町民の町に対する思いと参加意識の高さ、そして都心から近いという点である。富田町長以下、これらの強みを生かすべく、今は多様な事業を継続して受け入れていくことによって町の経験値を上げ、情報を発信し続けることができるからこそ次の新しいアイデアが舞い込む、というサイクルを作ることに注力している。

今後は、これまでとは異なる取り組みも必要となるかもしれない。町独自の取り組みとして、あるいは国や県などの地方創生の制度や枠組みをも利用しつつ、一定の資金を投資しながら進めるべき事業も出てくるであろう。その時には、「よこらぼ」を通じて横瀬町に集積した人のネットワーク・モノ・情報は、まちづくりの次のステップである、町民のために町の具体的課題のソリューションに取り組む際の大きな武器になるであろう。

おわりに

横瀬町は秩父地域の東の玄関口として、町の取り組みを、横瀬町だけでなく秩父地域の活性化にもつなげることができると考えている。

また小さな、これといった特長のない横瀬町の取り組みが他の自治体へ波及していく可能性も大きく、それが地方から日本が変わるという流れにつながる可能性もあると信じている。

次の1年は、「よこらぼ」が成長する1年になることを期待したい。

(取材協力：横瀬町)